

# 小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No.	50
-----	----

1. 基本情報				
<1> 事業・業務名	危険物施設の査察		<2> 事業・業務の別	業務
<3> 選定基準	⑤ その他		<4> 継続評価・新規評価の別	継続評価
<5> 総合計画 基本計画 での体系	大項目	5 災害に強く 快適で住みよい 夢を支えるまちづくり	<6> 担当部(局)	消防本部
	中項目	5-1 災害に強く安全安心なまち	<7> 担当所属	予防課
	小項目	5-1-2 消防・救急	<8> 担当係等	保安係
	施策	予防指導事業		
<9> 根拠法令・計画等	消防法		<10> 関連・類似事業	
<11> 会計	会計	<12> 予算科目	款 項 目	
<13> 実施期間	年度 ~ 年度	<14> 全体事業費	千円	
<15> 実施手法	直営		「その他」の場合 ( )	

2. Do - 実施 -								
<16> 事業・業務の概要	危険物を貯蔵・取り扱う施設からの災害発生を防止することにより、安全・安心な市民の生活を確保するため査察を実施する。							
目的	<17> 事業・業務の目的	危険物を貯蔵・取り扱う施設からの災害発生を防止することにより、安全・安心な市民の生活を確保することを目的とする。						
	<18> 事業・業務の対象	危険物を貯蔵・取り扱う施設						
手段	<19> 平成29年度の活動内容	危険物を貯蔵・取り扱う施設に対して査察を実施し、不備・欠陥等を確認した場合には是正・改善指導を実施。						
	<20> 活動指標 (アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度		
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)
	査察実施数	施設	357	358	339	339	100.0%	
成果	<21> 事業・業務の成果	危険物を貯蔵・取り扱う施設を適正に維持管理させ、危険物施設からの火災・災害等を発生させないようにするとともに、市民の安全を確保し、安心して暮らせるまちづくりをする。						
	<22> 成果指標 (アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度		
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)
	違反改修状況	%	100	100	100	100	100.0%	
コスト ～資源の投入量	<23> 投入指標 (インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度		
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)
	コスト	千円	3,607	3,607	3,598	3,598	100.0%	
	事業費等	千円	0	0	0	0		
	財源内訳	国・県補助金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
一般財源		千円						
人件費	千円	3,607	3,607	3,598	3,598	100.0%		
正職員	千円 × 人役	7,214 × 0.5	7,214 × 0.5	7,195 × 0.5	7,195 × 0.5			
他の職員		×	×	×	×			

### 3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の 妥当性	1.妥当である	理由	危険物施設からの災害事故は全国的に増加傾向にあり、災害事故防止のため査察は必要である。  消防法に市長が行うように定められており、市民の安全・安心なまちづくりのため、その手法は妥当である。
		<25> 手段や実施手法の 妥当性	1.妥当である		
	有効性	<26> 成果の向上余地	2.向上の余地がある	理由	是正・改善が必要な施設を無くすとともに、貯蔵または取扱状況を消防法に適合させ、自主保安管理の徹底、災害発生防止を推進させる。
	効率性	<27> 事業費や人件費の 削減余地	1.削減の余地なし	理由	人件費のみ。
	公平性	<28> 受益者負担の 適正化余地	1.適正	理由	危険物施設の関係者は、位置、構造及び設備が技術上の基準に適合するよう消防法で定められている。
	<29>総合評価	2.改善の余地がある	理由	危険物施設の違反改修率は目標を達成しているが、災害事故は全国的に増加傾向にあり、自動化や複雑な工程導入により事故の発生確率が高くなっている。すべての施設を適法な状態で維持管理し、関係者に対する自主保安体制の確保を推進させるためには、毎年継続し、査察を実施する事が求められる。	

### 4. Action - 改善 -

事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等	危険物の保安を確保するためには、各事業所の法令遵守はもとより、自主保安体制の確立、危険物の保安に対する意識の高揚が不可欠である。 査察により、施設の潜在危険要因を抽出し、是正・改善の指導を行い、関係者による自主保安体制を確立させ、事故防止の推進を図る。			
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	全国的に増加傾向にある危険物災害は、近年においては深刻な被害が生じる事故も続発しているため、各種の事故原因及び、新たな技術基準等について調査・研究を行い、査察によって災害の未然防止を推進するため、事業を継続することが必要である。
	<32> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	危険物による災害事故が発生した場合、物的・人的に甚大な被害が発生することが考えられることから、災害発生防止のため危険物施設の査察業務は重要である。 継続的に査察及び改善指導を実施し、火災・災害の予防に努めること。

### 5 Plan - 計画 -

事業の計画	<33>実施計画	危険物を貯蔵・取り扱う施設に対して査察を実施し、不備・欠陥等を確認した場合は是正・改善指導を行う。	<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度
	<34>活動・成果目標	査察を実施し、不備・欠陥等を確認した場合は是正・改善指導を行うとともに、関係者による自主保安体制を確立させ、事故防止の推進を図る。		コスト	千円	3,598	3,598
				事業費等	千円		
				人件費	千円	3,598	3,598